

【2021 年度 教育課題演習について】

選択必修科目の教育課題演習は、現代社会における様々な課題を広い意味での教育と結びつけて考えることを最大の目的とする。具体的には、調査・実験・フィールドワーク等を通して、教育に関する多様な視点を習得すると同時に、様々な理論や研究を批判的に検証することで教育に関する思考力を育成する。

2021 年度は以下の9クラスが開設されるので、良く読み、自らの興味関心と照らし合わせて選択をすること。

1 児童文学から読む、家族と子どもの現代【大島 丈志】

現代の児童文学作品を読み、その内容を考察し、プレゼンテーションすることから学んでいきます。

児童文学は、子どもや家族のおかれている状況を映し出す「鏡」という性質を持ちます。児童文学を学ぶことは、現代の子どもと家族の状況を知り、学ぶことにつながります。作品の描かれた歴史・文化に関する調査も行い、歴史・文化と関連させながら児童文学作品を読むことで、現代の子どもと教育・家族をめぐる問題について考えてもらいます。

2 論理的文書作成技能を身に付けよう【白石 和夫】

数学では、定義を満たすことを確かめる作業が必須です。そのうち、決まりきった手順で実現できることを、「自明」といいます。英語では“trivial”です。馬鹿正直に定義と照らし合わせていけばいいだけのことなのですが、初学者には案外むずかしい作業です。

この授業では、論理と集合に関する諸概念を学ぶことを通して、本格的に数学を学ぶ上で必須となる論理的文書作成技能の習得を目指します。

3 芸術教育の充実のために【峯村 操】

High culture に位置づけられる芸術家（作曲家・演奏家・舞踊家・画家・建築家等）または芸術作品自体について書かれた著作を読み、芸術教育の観点から分かりやすく噛み砕いていく。音楽史・音楽用語もしくは美術史の知識が、相当程度備わっていることが望ましい。

4 スポーツを「クリティカル・シンキング」する【佐藤 正伸】

批判的考察と訳す「クリティカル・シンキング」は、対象を否定／非難する考察ではなく、「より良い」に向かい「伸ばす／直すところ」を見つける思考です。さて、「スポーツは文化」「人間形成に役立つ」などと言われます。確かに、フェアプレーは清々しいものですが、他方、スポーツには暴力やハラスメントなどもつきまといまいます。そこで、本クラスは、スポ

ーツを「クリティカル・シンキング」し、その力の習得／向上を目指します。

5 課題発見力をつけるために、五感を使って生活を見つめよう【土肥 麻佐子】

新学習指導要領では学びを通して課題解決能力を育成することが求められている。指導のためには、課題を発見する力が必要であろう。課題発見の基礎として、五感を磨いて何がよいか、何が足りないかを感じ、それを客観的に捉える力をもつことが大切である。本授業では衣食住の生活と五感の働きの関連を科学的に学ぶとともに、ICT を活用して日常生活をよく観察し、よいことを見つけ、さらによくする方法を考える演習を行う。

6 アクティブ・ラーニングに関して心理学的に考える【池田 進一】

アクティブ・ラーニングについて概要を解説する。具体的には、まず、アクティブ・ラーニングに関する政策の動向として、歴史的な経緯を説明したうえで、高大接続をとりあげる。次に、アクティブ・ラーニングの定義を整理して、その問題点を詳しく検討する。さらに、日本の学校教育におけるアクティブ・ラーニングの実践の現状を紹介する。

7 よりよい教育のためのキーワード【加藤 理】

「自己肯定感」と「隠れたカリキュラム」について調べ、発表してもらいます。「自己肯定感」は、学校内で居場所を実感し、物事に意欲的に取り組む力を持ち、自分と他者の存在を大切にするために、教育現場で重視されている概念です。「隠れたカリキュラム」は、ジェンダー問題や差別意識、いじめ問題などを誘発する要因として注目されている概念です。学校が抱える教育課題を解決していくためのキーワードについて深く学びたいと思います。

8 教育問題を根拠をもって考えよう【千葉 聡子】

前半の8回の授業では、1年生の基礎演習で学んだ、読むこと、書くこと、話し合うことなどを振り返り、さらに後半のプレゼンテーションの準備となる課題を深めるグループワーク方法について実践的に学ぶ予定です。またこの授業全体で取り扱う教育課題については今のところ「入試」「塾と家庭」「教員の仕事」などのいくつかの課題から一つか二つを授業の最初で選択して、全体、またグループの課題とする予定です。この課題に沿って前半の一部、また後半の授業は進めていきます。

9 予測不可能事象：しなやかなマインドセット 【藤森 裕治】

「予測不可能事象」とは、主体の予期・予想・期待を越えて発生する出来事のうち、何らかの認知葛藤と自省作用とをもたらし、既存の価値観や常識に見直しをせまるものをいう。本課題演習ではその様相と捉え方について先行諸研究に学び、いかなる概念装置としてこれを同定すべきか検討する。ついで、実際の教育実践場面における予測不可能事象の具体相について、ドキュメント・レポートをもとに分析・検討し、実践的知見を得る。